

第2学年 〈国語科古典B〉学習指導案

令和4年12月12日(月) 第2校時

鹿児島県立甲南高等学校 2年7組 生徒数40名

指導者 内田まゆみ 西拓洋

1. 単元名(教材名)

三国志(基礎が身につく古典 レベル3 Z会編集部)

2. 単元の目標

(1)漢文を読むのに必要な語句の意味や句法を理解する。(知識・理解)〈指導事項の(ア)〉

(2)登場人物の主張とその根拠を読み取り、理解する。

3. 育成を目指す言語能力(現行の学習指導要領との関連)

高等学校学習指導要領「古典B」読むこと

イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。

4. 単元について

(1) 生徒について(生徒観)

普通科2年の生徒である。授業でペアワーク、グループワークを活発に行う生徒が多い。ただし、古典に対して苦手意識を持っている生徒もあり、適宜、基礎的な事項を振り返りながら学習している。

(2) 教材について(教材観)

演習として用いている「基礎が身につく古典 レベル3 Z会編集部」から三国志を用いる。登場人物の主張を論理だてて理解しやすい教材である。

(3) 指導について(指導観)

演習用テキスト「基礎が身につく古典 レベル3 Z会編集部」および補助資料を用いて、漢文の大意をとり、登場人物の主張を読み取る。生徒の意見共有の場として「padlet」無料掲示板アプリを用いる。

5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度
古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解している。	古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえている。	古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえようとしている。

6. 本時の指導 第1時／全2時間

(1)本時の目標

(1)漢文を読むのに必要な語句の意味や句法を理解する。

(2)登場人物の主張とその根拠を読み取り、作品に描かれている「曹冲像」を理解する。

(3)登場人物の間に対して、積極的に自分の考えを述べることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導 入	<p>本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・曹沖はどのようにして庫吏を助けたのか読みとろう。 ・太祖の難題に挑戦しよう。</p> </div>	生徒に予習させておく。	
展 開 1	<p>本文を音読し、大意をつかむ。</p> <p>曹沖はどのようにして庫吏を助けたのかを発表させる。</p> <p>抑揚の句法を確認し、太祖の考えを理解する。</p>	<p>音読後、本文の大意を確認させる。</p> <p>padletに投稿させておく。</p> <p>抑揚の句法を確認させる。 数学科教諭により、論の展開について考えさせる。</p>	<p>・本文の概要を捉え受身の句法を現代語に訳することができる。(知識・理解)</p> <p>・本文の概要を的確にとらえようとしている。(読む能力)</p>
展 開 2	<p>補助資料から、太祖の難題を読み取る。</p> <p>グループで「象の重さの測り方」について考え、発表する。</p> <p>曹沖の解答をベクトルを用いて表す。</p>	<p>音読後、大意を確認させる。</p> <p>グループで考え、padletに投稿させる。</p> <p>数学科教諭が浮力についてベクトルを用いて説明する。</p>	<p>・本文の概要を捉えることができる。(知識・理解)</p> <p>・太祖の問いについて自分の考えを述べられる(関心・意欲・態度)</p>
ま と め	本時を振り返る。	曹沖の聡明さは、論理的な思考力に基づくこと説明する。	

7. 工夫した点

- (1) 論理的に展開されている古典の教材を用いる。
- (2) 生徒の意見交換の場としてpadlet(アプリ)を用いる。